

DOCKET NO.: 210149US0PCT

**IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE**

IN RE APPLICATION OF: HAYASHI Hiromitsu et al.

SERIAL NO.: NEW U.S. PCT APPLICATION

FILED: HERewith

INTERNATIONAL APPLICATION NO.: PCT/JP00/07897

INTERNATIONAL FILING DATE: November 9, 2000

FOR: SOFTENER COMPOSITION

**REQUEST FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. 119**  
**AND THE INTERNATIONAL CONVENTION**

Assistant Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231

Sir:

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicant claims as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NO</u>	<u>DAY/MONTH/YEAR</u>
Japan	11-323180	12 November 1999
Japan	2000-102428	04 April 2000
Japan	2000-114097	14 April 2000

Certified copies of the corresponding Convention application(s) were submitted to the International Bureau in PCT Application No. PCT/JP00/07897. Receipt of the certified copy(s) by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.

Respectfully submitted,  
OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,  
MAIER & NEUSTADT, P.C.

*Surinder Sachar*

Norman F. Oblon  
Attorney of Record  
Registration No. 24,618  
Surinder Sachar  
Registration No. 34,423



22850

(703) 413-3000  
Fax No. (703) 413-2220  
(OSMMN 1/97)

11

1

1

09.11.00

日 本 国 特 許

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

RECEIVED 28 NOV 2000

WIPO

PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

JP00/7897

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年11月12日

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第323180号

出 願 人

Applicant(s):

花王株式会社

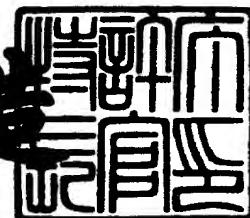
EV.

**PRIORITY DOCUMENT**  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 9月 8日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3071327

【書類名】 特許願

【整理番号】 199K0241

【提出日】 平成11年11月12日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 D06M 13/46

【発明者】

【住所又は居所】 和歌山県和歌山市湊 1 3 3 4 花王株式会社研究所内

【氏名】 林 宏光

【発明者】

【住所又は居所】 和歌山県和歌山市湊 1 3 3 4 花王株式会社研究所内

【氏名】 山口 紀子

【発明者】

【住所又は居所】 和歌山県和歌山市湊 1 3 3 4 花王株式会社研究所内

【氏名】 田方 秀次

【発明者】

【住所又は居所】 和歌山県和歌山市湊 1 3 3 4 花王株式会社研究所内

【氏名】 小倉 信之

【特許出願人】

【識別番号】 000000918

【氏名又は名称】 花王株式会社

【代理人】

【識別番号】 100063897

【弁理士】

【氏名又は名称】 古谷 馨

【電話番号】 03(3663)7808

【選任した代理人】

【識別番号】 100076680

【弁理士】

【氏名又は名称】 溝部 孝彦

【選任した代理人】

【識別番号】 100087642

【弁理士】

【氏名又は名称】 古谷 聡

【選任した代理人】

【識別番号】 100091845

【弁理士】

【氏名又は名称】 持田 信二

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 010685

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

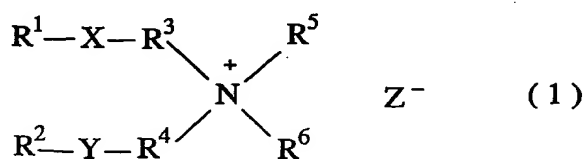
【書類名】 明細書

【発明の名称】 柔軟剤組成物

【特許請求の範囲】

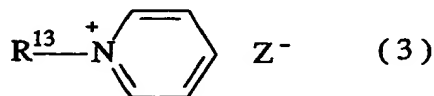
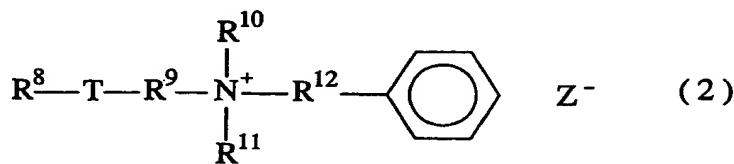
【請求項 1】 (a) 下記一般式 (1) の 4 級アンモニウム化合物、及び (b) 下記一般式 (2) の化合物及び／又は一般式 (3) の化合物 0. 1 ~ 1 5 重量% を含有する柔軟剤組成物。

【化 1】



〔式中、 $\text{R}^1$ 、 $\text{R}^2$  は、それぞれ独立に、炭素数 12 ~ 22 のアルキル基又はアルケニル基を示し、 $\text{X}$ 、 $\text{Y}$  は、それぞれ独立に、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{CONR}^7-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-\text{NR}^7\text{CO}-$  であり、少なくともいずれか一方は  $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCO}-$  である。ここで  $\text{R}^7$  は水素原子、炭素数 1 ~ 3 のアルキル基又はヒドロキシアルキル基を示す。 $\text{R}^3$ 、 $\text{R}^4$  は、それぞれ独立に、炭素数 1 ~ 5 のアルキレン基であり、 $\text{R}^5$  は炭素数 1 ~ 3 のアルキル基もしくはヒドロキシアルキル基又は  $\text{R}^1-\text{X}-\text{R}^3-$  である。 $\text{R}^6$  は炭素数 1 ~ 3 のアルキル基であり、 $\text{Z}^-$  は陰イオン基である。〕

【化 2】



〔式中、 $R^8$ 、 $R^{13}$ は、それぞれ独立に、炭素数5～19のアルキル基又はアルケニル基であり、 $R^{10}$ 、 $R^{11}$ は、それぞれ独立に、炭素数1～3のアルキル基又はヒドロキシアルキル基である。 $R^{12}$ は炭素数1～3のアルキレン基である。Tは $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-\text{CONH}-$ 、 $-\text{NHCO}-$ 、

【化3】



あるいは連結手である。 $R^9$ は炭素数1～6のアルキレン基又は $-(\text{O}-R^{14})_n-$ である。ここで $R^{14}$ はエチレン基もしくはプロピレン基であり、 $n$ は1～10の数である。 $Z^-$ は陰イオン基である。〕

【請求項2】 さらに(c)非イオン界面活性剤及び／又は陰イオン界面活性剤を含有する請求項1記載の柔軟剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は柔軟剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

従来、柔軟剤には長鎖アルキル基を有する4級アンモニウム塩や3級アミンの酸塩などが用いられている。また、繊維製品の衛生や消臭の点から抗菌剤を柔軟剤組成物に配合する試みがなされている。特開平10-512015号公報には柔軟剤として水不溶性の4級アンモニウム塩及び抗菌剤として水溶性4級アンモニウム塩を配合した柔軟剤組成物が開示されている。しかしながら抗菌性水溶性4級アンモニウム塩は柔軟効果を低下させるという問題があり、満足できる抗菌効果を得るためには柔軟効果を犠牲にする必要があった。特に室内で衣料を乾燥させたときの菌に起因する異臭や着用時の汗に由来する体臭を長時間抑制できる

抗菌性能と、高い柔軟効果を両立できる組成物を得ることは困難である。

【0003】

従って本発明の課題は汗などに由来する体臭を長時間抑制し、且つ柔軟効果に優れる柔軟剤組成物を提供することにある。

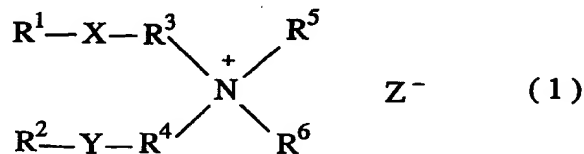
【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明は、(a) 下記一般式(1)の4級アンモニウム化合物、及び(b) 下記一般式(2)の化合物及び／又は一般式(3)の化合物0.1～15重量%を含有する柔軟剤組成物を提供する。

【0005】

【化4】



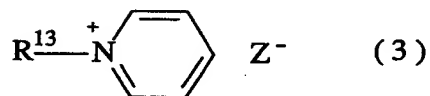
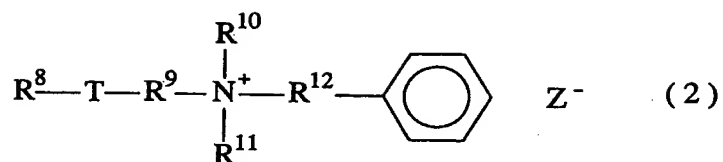
【0006】

〔式中、 $\text{R}^1$ 、 $\text{R}^2$ は、それぞれ独立に、炭素数12～22、好ましくは14～18のアルキル基又はアルケニル基を示し、X、Yは、それぞれ独立に、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{CONR}^7-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-\text{NR}^7\text{CO}-$ 、好ましくは $-\text{COO}-$ 又は $-\text{CONR}^7-$ であり、少なくともいずれか一方は $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、好ましくは $-\text{COO}-$ である。ここで $\text{R}^7$ は水素原子、炭素数1～3のアルキル基又はヒドロキシアルキル基、好ましくは水素原子を示す。 $\text{R}^3$ 、 $\text{R}^4$ は、それぞれ独立に、炭素数1～5のアルキレン基であり、 $\text{R}^5$ は炭素数1～3のアルキル基もしくはヒドロキシアルキル基又は $\text{R}^1-\text{X}-\text{R}^3-$ である。 $\text{R}^6$ は炭素数1～3のアルキル基であり、 $\text{Z}^-$ は陰イオン基、好ましくはハロゲンイオン、脂肪酸イオン、炭素数1～3のアルキル硫酸イオンである。〕

【0007】



【化 5】



【0 0 0 8】

〔式中、 $\text{R}^8$ 、 $\text{R}^{13}$ は、それぞれ独立に、炭素数 5～19、好ましくは 7～17 のアルキル基又はアルケニル基であり、 $\text{R}^{10}$ 、 $\text{R}^{11}$ は、それぞれ独立に、炭素数 1～3 のアルキル基又はヒドロキシアルキル基である。 $\text{R}^{12}$ は炭素数 1～3 のアルキレン基である。T は  $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-\text{CONH}-$ 、 $-\text{NHCO}-$

【0 0 0 9】

【化 6】



【0 0 1 0】

あるいは連結手である。 $\text{R}^9$ は炭素数 1～6 のアルキレン基又は  $-(\text{O}-\text{R}^{14})_n-$  である。ここで  $\text{R}^{14}$  はエチレン基もしくはプロピレン基、好ましくはエチレン基であり、n は 1～10、好ましくは 1～5 の数である。 $\text{Z}^-$  は陰イオン基、好ましくはハロゲンイオン、炭素数 1～3 のアルキル硫酸イオンである。〕

ここで、連結手とは  $\text{R}^8$  と  $\text{R}^9$  とを直接つなぐ共有結合のことを指す。

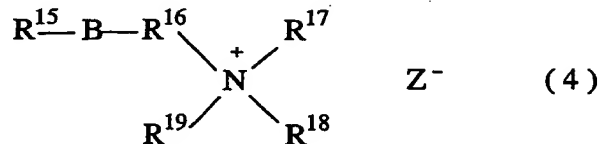
【0 0 1 1】

【発明の実施の形態】

(a) 成分 本発明の (a) 成分は前記一般式 (1) で表される 4 級アンモニウム塩化合物であり、衣料の風合いの点から、下記一般式 (4) の化合物を併用することが望ましい。

【0012】

【化 7】



【0013】

〔式中、 $\text{R}^{15}$ は炭素数 12～22、好ましくは 14～18 のアルキル基又はアルケニル基を示し、B は、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{CONR}^{20}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-\text{NR}^{20}\text{CO}-$ 、好ましくは  $-\text{COO}-$  又は  $-\text{CONR}^{20}-$  である。ここで  $\text{R}^{20}$  は水素原子、炭素数 1～3 のアルキル基又はヒドロキシアルキル基、好ましくは水素原子を示す。また、 $\text{R}^{16}$  は炭素数 1～5 のアルキレン基であり、 $\text{R}^{17}$ 、 $\text{R}^{18}$  は、それぞれ独立に、炭素数 1～3 のアルキル基又はヒドロキシアルキル基を示す。 $\text{R}^{19}$  は炭素数 1～3 のアルキル基であり、 $\text{Z}^-$  は陰イオン基、好ましくはハロゲンイオン、脂肪酸イオン、炭素数 1～3 のアルキル硫酸イオンである。〕。

【0014】

本発明の柔軟剤組成物では柔軟効果の点から一般式 (1) の化合物と一般式 (4) の化合物とを、 $(1)/(4) = 80/20 \sim 99/1$ 、特に  $85/15 \sim 95/5$  の重量比で含有することが好ましい。

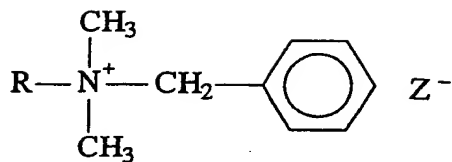
【0015】

(b) 成分

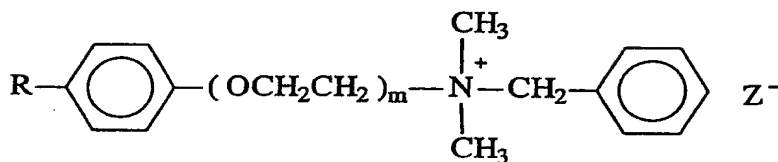
本発明の (b) 成分は前記一般式 (2) 又は (3) の化合物であり、最も好ましい (b) 成分として下記の化合物を挙げることができる。式中の  $\text{Z}^-$  は前記の意味を示す。

【0016】

【化 8】



〔Rは炭素数 12～16 のアルキル基〕



〔Rは分岐していてもよい炭素数 6～10 のアルキル基、  
mは 1～5 の数〕



〔Rは炭素数 8～18 のアルキル基である。〕

【0017】

（柔軟剤組成物）

本発明の柔軟剤組成物は、（a）成分を 3～50 重量％含有するのが好ましく、より好ましくは 3～40 重量％、特に好ましくは 5～35 重量％含有する。また、（b）成分を 0.1～15 重量％、好ましくは 1～15 重量％、特に好ましくは 3～10 重量％含有する。また、衣料の風合い及び消臭効果の点から（b）／（a）が重量比で 1／30～1／1、好ましくは 1／10～1／1 が望ましい。

【0018】

本発明の柔軟剤組成物は、（a）成分及び（b）成分を水で希釈した水溶液の形態が好ましい。使用する水は蒸留水又はイオン交換水が好ましい。また、水は組成物中に 40～90 重量％、特に 50～85 重量％配合することが貯蔵安定性

の点で望ましい。

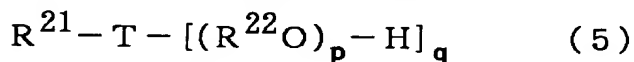
【0019】

さらに、本発明の組成物は、消臭効果及び貯蔵安定性の点から、20℃におけるpHを2～5、特に2.5～4に調整することが好ましい。

【0020】

(c) 成分

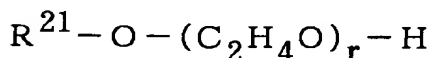
本発明では貯蔵安定性の点から上記(a)及び(b)成分に加えてさらに(c)非イオン界面活性剤又は陰イオン界面活性剤(c)を配合することが好ましい。非イオン界面活性剤としては炭素数8～20のアルキル基またはアルケニル基を1つ以上有するポリオキシエチレンアルキルエーテルが好ましく、特に一般式(5)の非イオン界面活性剤が良好である。



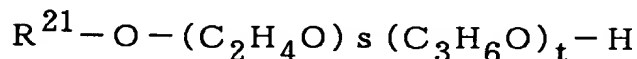
〔式中、 $R^{21}$ は、炭素数10～18、好ましくは12～18のアルキル基又はアルケニル基であり、 $R^{22}$ は炭素数2又は3のアルキレン基であり、好ましくはエチレン基である。pは2～100、好ましくは5～80、特に好ましくは20～60の数を示す。Tは-O-又は-CON-であり、Tが-O-の場合はqは1であり、Tが-CON-の場合はqは2の数である。〕。

【0021】

一般式(5)の化合物の具体例として以下の化合物を挙げることができる。



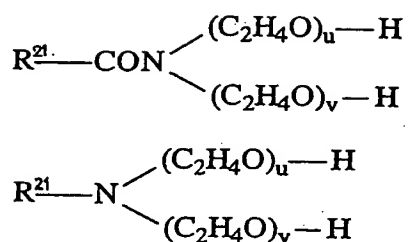
〔式中、 $R^{21}$ は前記の意味を示す。rは8～100、好ましくは20～80の数である。〕



〔式中、 $R^{21}$ は前記の意味を示す。s及びtはそれぞれ独立に2～40、好ましくは5～40の数であり、エチレンオキシドとプロピレンオキシドはランダムあるいはブロック付加体であってもよい。〕

【0022】

【化 9】



〔式中、 $\text{R}^{21}$  は前記の意味を示す。U及びVの合計は5～100、好ましくは5～80の数である。〕

【0023】

上記非イオン界面活性剤の配合量は安定性の点から0.5～10重量%、好ましくは1～8重量%である。

【0024】

本発明では繊維製品の風合いを向上させる目的で陰イオン界面活性剤、中でも脂肪酸又はその塩類を配合することが好ましく、具体的にはカプリル酸、カプリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、あるいはこれらの混合物であり、特にラウリン酸、ステアリン酸、オレイン酸から選ばれる1種以上が良好である。また、ヤシ油、パーム油、パーム核油、牛脂から誘導されるアルキル組成を有する脂肪酸も好ましい。上記脂肪酸又はその塩の配合量は、組成物中0.01～5重量%、特に0.5～3重量%が好ましい。

【0025】

本発明では、貯蔵安定性の点から、炭素数8～22の飽和又は不飽和脂肪酸と多価アルコールとのエステル化合物を組成物中0.1～10重量%、特に0.5～5重量%配合することが好ましい。エステル化合物としては、トリグリセライド、ジグリセライド、モノグリセライド、ペンタエリスリトールのモノ、ジ、トリエステル、ソルビタンエステルが好ましい。

【0026】

本発明では、無機塩、例えば塩化カルシウムなどを0～1000ppm、好ま

しくは 1 0 ~ 5 0 0 p p m 添加することが貯蔵安定性の点で望ましい。但し、脂肪酸塩類などの界面活性剤にはナトリウム塩やカリウム塩が含まれているが、このような界面活性剤の使用によって組成物に混入する無機塩は上記制限を受けるものではない。

【 0 0 2 7 】

さらに本発明では、エタノール、イソプロパノール、グリセリン、エチレングリコール、プロピレングリコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール及びポリオキシエチレンフェニルエーテルから選ばれる溶媒成分を配合することが貯蔵安定性の点から好ましい。これら溶媒成分は、組成物中に 0 ~ 2 0 重量%、特に 0 . 5 ~ 1 0 重量%配合することが好ましい。なお、エタノールを使用する場合は、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩変性エタノールや 8 - アセチル化蔗糖変性エタノールを使用することが望ましい。

【 0 0 2 8 】

本発明の柔軟剤組成物には、通常繊維処理剤に配合されるシリコーン、香料（特に好ましくは特開平 8 - 1 1 3 8 7 号公報記載の成分（c）及び（d）にて示された香気成分の組み合わせ）あるいは色素等の成分を配合しても差し支えない。

【 0 0 2 9 】

【実施例】

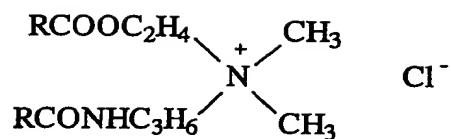
<配合成分>

以下に実施例に用いた成分を示す。

【 0 0 3 0 】

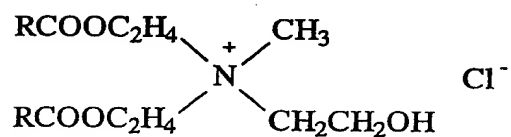
【化 10】

(a-1)



R ; 炭素数 18 および 16 が混合した飽和アルキル基  
(炭素数 18 / 炭素数 16 = 60 / 40)

(a-2)



R ; 炭素数 18 および 16 が混合した飽和アルキル基  
(炭素数 18 / 炭素数 16 = 60 / 40)

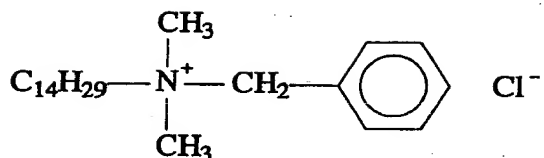
【0031】

(a'-1) : ジオレオイルヒドロキシエチルメチルアンモニウムメチルサルフェート

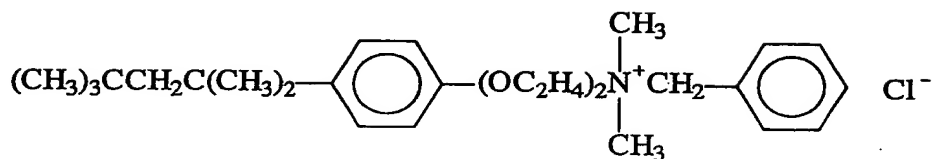
【0032】

【化 1 1】

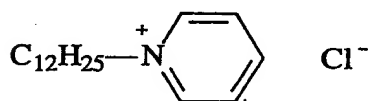
(b-1)



(b-2)



(b-3)



【0 0 3 3】

(b' - 1) : ジデシルジメチルアンモニウムクロリド

(c - 1) : 炭素数 12 の飽和アルコールにエチレンオキシドを平均 2.1 モル付加させたもの

(c - 2) : ラウリン酸のジエタノールアミドにエチレンオキシドを平均 2.0 モル付加させたもの

(c - 3) : ルナック S-50 (ラウリン酸、花王 (株) 製)

(d - 1) : エキセル 150 [ステアリン酸モノ、ジ、トリグリセリド混合物 (モノ:ジ:トリ=60:35:5) 花王 (株) 製]

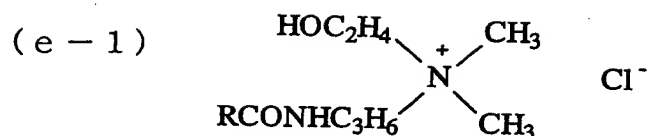
(d - 2) : 塩化カルシウム

(d - 3) : エチレングリコール

【0 0 3 4】



【化 12】



R；炭素数 18 および 16 が混合した飽和アルキル基  
(炭素数 18 / 炭素数 16 = 60 / 40)

【0035】

(f-1)：色素（アシッドブルー 9）

(f-2)：香料〔ヘキシルシンナミックアルデヒド（18）、ネロリンヤラヤ  
ラ（4）、トリシクロデセニルアセテート（4）、ベンジルアセテート（10）、  
ムスクケトン（5）、アニシルアセトン（2）、サンダルマイソールコア（2）、  
アルデヒド C14 ピーチ（1）、リナロール（18）、ジヒドロキシミルセ  
ノール（8）、ボルネオール（4）、セドロール（4）、ムゴール（5）、ベン  
ジルアルコール（5）、ジプロピレングリコール（10）の混合物：カッコ内は  
香料中の重量％〕

(f-3)：シリコーン（東芝シリコーン製、TSA730）。

【0036】

実施例 1

上記化合物を用いて表 1 に示す柔軟剤組成物を調製した。セーター（コットン  
100％）2 枚を市販の弱アルカリ性洗剤（花王製アタック）を用いて洗濯機で  
洗浄した（東芝製 2 槽式洗濯機 VH-360S1、洗剤濃度 0.0667 重量％  
、水道水 30 L 使用、水温 20℃、10 分間）。その後洗浄液を排出し、1 分間  
脱水後、30 L の水道水を注水して 5 分間すすぎを行い、排水後 1 分間脱水を行  
った。その後再度 30 L の水道水を注水した後、表 1 の柔軟剤組成物 5 g を添加  
し 5 分間攪拌した。その後、脱水し、湿度 70％、25℃の恒温室で 12 時間乾  
燥した。

【0037】

(柔軟性能の評価)

表 1 の柔軟剤組成物及び対応する組成物から抗菌成分〔(b) 成分又は (b' ) 成分〕を除いた組成物を用いて上記柔軟処理を行い、10 人のパネラーに 1 対比較で下記の基準で評価し、平均点を求めた。

(b) 成分の有る方が柔らかく仕上がる…+1

(b) 成分の有り無しで仕上がりに差はない……0

(b) 成分の無い方が柔らかく仕上がる……-1。

【0038】

(臭い評価)

恒温室で乾燥させた衣料の臭いと、それら衣料を 20 代男性 5 人に 12 時間着用させた後の衣料の臭いを、それぞれ 10 人のパネラー (30 代男性 10 人) により下記の基準で判定し、それぞれ平均点を求めた。

ほとんど臭いを感じない……0

かすかに臭いを感じるが気にならない程度である……1

臭いがする……2

顕著に臭いがする……3

【0039】

【表 1】

			本 発 明 品			比 較 品		
			1	2	3	1	2	3
柔軟剤組成物	配合成分（重量％）	(a-1)	15		6			
		(a-2)		15				
		(a'-1)				15	15	7.5
		(b-1)	5			5		
		(b-2)		5				
		(b-3)			3			
		(b'-1)					5	10
		(c-1)	2		2	2	2	2
		(c-2)		2				
		(c-3)	1	1	1	1	1	1
		(d-1)	1	1	1	1	1	1
		(d-2)	100ppm	100ppm	100ppm	100ppm	100ppm	100ppm
		(d-3)	3	3	3	3	3	
		(e-1)	1.5	1.5	0.5			
		(f-1)	10ppm	10ppm	10ppm	10ppm	10ppm	10ppm
		(f-2)	50ppm	50ppm	50ppm	50ppm	50ppm	50ppm
		(f-3)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
		イオン交換水	残部	残部	残部	残部	残部	残部
		合計	100	100	100	100	100	100
	pH(20℃)		3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1
臭い	乾燥後の衣料	0.6	0.4	0.6	1.3	1.4	1.5	
	着用後の衣料	1.1	1.0	1.2	1.4	1.7	1.7	
柔軟性能			+0.2	+0.1	+0.1	-0.3	-0.4	-0.5

\* pHはN/10硫酸水溶液又はN/10水酸化ナトリウム水溶液により調整した。

【0 0 4 0】

## 実施例 2

表 2 に記載の組成の柔軟剤組成物（本発明品 4 ～ 8）を実施例 1 と同様にして

調製した。なお、香料は表 3 の組成のもの 1 0 0 重量部に対しジプロピレングリコール 1 0 重量部を混合したものを用いた。それらについて実施例 1 同様に評価したところ、何れも優れた臭い抑制効果と柔軟性能が認められた。

【 0 0 4 1 】

【表 2】

			本 発 明 品				
			4	5	6	7	8
柔軟剤組成物	配合成分（重量％）	(a-1)	15	15		15	
		(a-2)			15		15
		(b-1)	3	3		3	
		(b-2)			3		3
		(c-1)	2	2		2	
		(c-2)			2		2
		(c-3)	1	1	1	1	1
		(d-1)	1	1	1	1	1
		(d-2)	100ppm	100ppm	100ppm	100ppm	100ppm
		(e-1)	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
		(f-1)	10ppm	10ppm	10ppm	10ppm	10ppm
		香 料 (表3記載の香料)	香料1 0.37	香料2 0.25	香料3 0.3	香料4 0.3	香料5 0.3
		イオン交換水	残 部	残 部	残 部	残 部	残 部
		合 計	100	100	100	100	100
		pH	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5

\* pHはN/10硫酸水溶液又はN/10水酸化ナトリウム水溶液により調整した。

【 0 0 4 2 】

【表 3】

香 料 成 分 (重量%)	香料1	香料2	香料3	香料4	香料5
ヘキシルシンナミックアルデヒド	0	0	13	0	0
ネロリンヤラヤラ	0	0	3	0	0
トリシクロデセニルアセテート	0	0	3	0	0
ベンジルアセテート	0	0	7	0	0
ムスクケトン	0	0	3	0	0
アニシルアセトン	0	0	1	0	0
サンダルマイソールコア	0	0	1	0	0
アルデヒドC14 ピーチ	0	0	1	0	0
メチルイオノン-ガンマ	7	0	0	3	0
イソイースーパー	7	0	0	3	0
デントローム	14	0	0	7	0
4-セブチルシクロヘキシルアセテート	14	0	0	7	0
リリアル	20	0	0	10	0
ヘソオナール	3	0	0	2	0
クマリン	3	0	0	1	0
アンプロキサン	1	0	0	0	0
ターピニルアセテート	0	12	0	0	20
セドリルアセテート	0	8	0	0	13
リラル	0	8	0	0	13
パールライド	0	4	0	0	7
サンダルシンス	0	4	0	0	7
フェニルアセトアルデヒド50%PEA	0	0	0	0	1
アルデヒドC12 MNA	0	0	0	0	1
シンナミルシンナメート	0	2	0	0	3
ベンジルイソオイゲノール	0	2	0	0	3
リナロール	0	0	0	0	13
ジヒドロキシミルセノール	0	0	0	0	7
ボルネオール	0	0	0	0	3
セドロール	0	0	0	0	3
ムゴール	0	0	0	0	3
ベンジルアルコール	0	0	0	0	3
フェニルエチルアルコール	12	0	29	0	0
シトロネロール	6	0	13	0	0
ターピネオール	6	0	13	0	0
フェニルエチルジメチルカルビノール	3	0	7	0	0
スチラリルアルコール	2	0	3	0	0
シンナミックアルコール	2	0	3	0	0
1-メントール	0	24	0	27	0
ゲラニオール	0	12	0	13	0
ジヒドロミルセノール	0	12	0	13	0
フェニルヘキサノール	0	6	0	7	0
ジメチルベンジルカルビノール	0	6	0	7	0
合 計 (重量%)	100	100	100	100	100

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 汗などに由来する体臭を長時間抑制し、且つ柔軟効果に優れる柔軟剤組成物を提供する。

【解決手段】 (a) 特定の 4 級アンモニウム化合物及び (b) 特定の陽イオン化合物を含有する柔軟剤組成物。

【選択図】 なし

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000000918]

1. 変更年月日 1990年 8月24日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号  
氏 名 花王株式会社

